

FoE Japan green earth

フレンズ・オブ・ジ・アース・ジャパン

NEWSLETTER vol.74 spring 2020 | www.foejapan.org



3・11から9年

原発事故の
“見える化”をめざして

シラウオを網からはずす漁師たち。福島県新地町の釣師浜漁港にて、2020年3月

CONTENTS

- 02-03 特集 脱原発と福島支援
3・11から9年 原発事故の“見える化”をめざして
- 04-05 ACTION REPORT
横須賀石炭火力訴訟第三回期日 未だ問われる原告適格
海に流しているの？ 処理汚染水
東京都内の公共建築工事も“熱帯合板”を使用、熱帯林減少に加担
ベトナム・ブンアン2 石炭火力発電事業への融資をやめて！
- 06 立ちこぎ活動日誌！ Vol.24
information FoE Japan は40周年を迎えました！

3・11から9年 原発事故の“見える化”をめざして

2011年3月11日に発生した東日本大震災とそれに続く東電福島第一原発事故から9年が経過しました。避難指示区域は次々に解除され、避難者への住宅支援も打ち切られました。

しかし、避難者はなお4万人を超え、線量が高い地域が点在するなど、被害は継続しています。

FoE Japanでは、とすると隠されてしまいがちな原発事故の被害を見つめ直し、被害者の声や被害実態を国内外に発信していくため、事故被害“見える化”プロジェクトを立ち上げました。ここでは、プロジェクトの一環として行った被害者のインタビューを紹介します。

原発が奪ったもの

「原発はすべてのものを奪った。俺らだって今も山には入れない。家にはやっぱり子ども達がいてよ、子ども達と一緒に山に行ってよ、そんで山の物を採ったりよ、いろいろ教えたりそれが当たり前だったから。そんな事、いまは何にもできないから」。飯舘村の元酪農家で、今は避難先から帰還し、そばの栽培に取り組む長谷川健一さんはこう語ります。

「そういうことも含めて、すべてのものを原発は奪った。それに対して、国も東電も何も責任を取ろうとしない」。

飯舘村の前田区長だった長谷川さんは、原発事故の発生当時、深刻な放射能汚染の状況についての情報がなく、避難指示がずいぶん遅れたこと、それが村民に無用な被ばくを強いたと言います。

「現在の新型コロナウイルスの対応をみると、原発事故当時のことが思い出される。対応が遅すぎる。調べない。情報



長谷川健一さん（飯舘村村民、元酪農家）

を公開しない。重症の人しかみない」。

長谷川さんは“ハコモノ”重視の復興のあり方にも強い疑問を投げかけています。たとえば、飯舘村の道の駅くまの館は巨額の予算をかけて作りましたが、赤字続き。

「村が毎年3,000万円ずつ増資している。赤字の補填っていうと、みんなに何やってるんだって言われるから“増資”ということに。にもかかわらず、まだ後ろにちっちゃい公園作って、3,000万円のブロンズのベンチを置くそうだ」。

インフラやハコモノ重視で巨額の復興予算が使われ、その一方で、一人ひとりが取り残されていることに、怒りを抱く人たちは少なくありません。

失った“普通の暮らし”に思いをはせて

浪江町から関西に避難した菅野みずえさんは、事故当時のことを以下のように語ってくれました。



菅野みずえさん（浪江町から関西に避難）

「15日の朝、息子が炊き出しから帰ってきて、『全町避難』だって。それから、耕運機のカソリン抜いて、軽自動車に入れて、息子と犬と逃げたんです」。

逃げる途中、郡山の体育館で、スクリーニング（避難時の被ばく検査など）を受けた菅野さん。「私の頭と上着を測ったら、測定器がパタンと振り切れて、その時はわからなかったですが、今から思うと10万cpm超えてたんですね。『上着は没収』って言われました」。

息子さんと喧嘩しながら、夜中じゅう車を走らせ、朝高速にのって最初のサービスエリアで大手コーヒーチェーン店のカフェ・オレを飲んだことを覚えていると言います。

「飲み始めたら、涙が溢れて止まらなかった。『ここはなんで

普通の日常があるの。私たち明日が見えないのに、ここには普通の暮らしがあるの』って…」。

使い捨てにされる作業員たち



疲れてロッカールームで横たわるごぼうさん [写真提供・撮影：桐島瞬さん]

元原発作業員のごぼうさん（仮名）からもお話を聞きました。今話題になっている映画『Fukushima50』について、「自分は正直『Fukushima50』を知らなかった。人に聞かれて、インターネットで調べてはじめて知りました。彼らもすごいと思いますが、そこに出てこない原発作業員、時間外で働いていた人たちにも目を向けていただきたいです」と語りました。作業員の多くは、医療や放射線管理も満足になされていないと言います。

「昼間働いている人たちも、夜中、真夜中に瓦礫を車に積んで運んでいる人たちも、放射線を浴びた量とか結構すごいです。そういう人たちは2週間位とか、他の人たちより短い期間でいなくなってしまうんですね」。

使い捨てにされ、いつの間にかいなくなる仲間たち…。「そういう表に出てこれない人たちにも目を向けていただきたい。声を出せないのであれば、声を出せる環境を作らなければならない。そこに大きな問題点が隠されている訳です。それは、労働者たち、避難したり地元にいったりしている人たち、帰還者にも言えることだと思います。そういうところを自分も見つめなおして、他の人たちともお話しして改善していければと思っています」。

ごぼうさん自身も相当の被ばくをしました。管理手帳に記録されている被ばく線量が多くなったため契約更新がされず、職を失いました。

そんな大変な境遇にあるごぼうさんが、避難者や帰還者にも思いをはせている様子が強く印象に残りました。

これが本当に“復興”なのか

現状、相次いで避難指示が解除されても、帰還はなかなか進みません。旧避難指示区域の居住率は3割以下にとど

まっています（復興関連事業の企業関係者、廃炉・除染関係の作業員などを含む）。若い世代が帰還せず、高齢者の1～2人世帯が点在する地域が多い状況です。

「近所では次々に家が取り壊されている。もともとのコミュニティの形は跡形もない。これが本当に“復興”なのか」と富岡町に帰還した91歳の男性は語ります。

それにもかかわらず、避難者向けの住宅提供などの支援は相次いで打ち切られています。2020年3月には、双葉町と大熊町を除く帰還困難区域からの避難者に対する住宅の無償提供が終了しました。（満田夏花）

FoE JapanのWEBサイトでは、“見える化”プロジェクトによるインタビュー映像を随時公開しています。ぜひYouTubeのチャンネル登録をお願いします。DVDの販売も行っています（1,600円+送料200円）。詳しくは以下から。

http://www.foejapan.org/energy/fukushima/mieruka_interview.html



FoE Japanでは、原発事故とそれにまつわる人々の記憶を“可視化”していくために、写真と一言メッセージを募集しました。2019年12月13日～2020年3月2日の応募期間中に74点の応募がありました。想いのこもった印象深い写真とメッセージをありがとうございました。

【応募写真より『道』】



ここに来たのは2011年夏。赤子と幼児を連れ右も左もわからぬ土地でどれだけ心細かったことか。不安と哀しみと孤独の戦いのなか、それでも子供たちは成長していく。やっと乗れるようになった

自転車で、夕日へ駆けてゆく。ここなら心配なく遊ばせてあげれる。でも本当は福島でさせたかったこと。美しい夕日に福島を重ね涙する。どうして私達はここにいますの？今すぐ私の福島に帰りたいのに。

以下のサイトにすべての作品をアップしました。ぜひご覧ください。

<http://www.foejapan.org/energy/fukushima/mierukaphoto2003.html>



ACTION REPORT

FoE Japan の
各活動の報告

CLIMATE

気候変動・エネルギー

<http://www.FoEJapan.org/climate/>

横須賀石炭火力訴訟第三回期日 —— 未だ問われる原告適格

2020年3月23日、横須賀石炭火力訴訟第三回期日が東京地方裁判所で執り行われました。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、傍聴者の数が大幅に制限されるなか、原告適格についての議論がなされました。次回期日は6月26日（金）14時から、東京地方裁判所で予定されています。

裁判後の勉強会では、神奈川県葉山町在住の武本匡弘さん（プロダイバー、環境活動家）を講師に、40年間のプロダイバー経験からみる海の変化や、太平洋島嶼国訪問の際の政府関係者との対話等について、気候正義の視点も含めお話しいただきました。

また、3月13日には、気候変動に危機感を持つ若者たち約20名が横須賀市役所前に集まり、「STOP 横須賀石炭火力!」「Beyond Coal!」と声を上げて、横須賀市長と市議に対し、石炭に頼らない未来を目指すよう求めるアクションを実施しました。

新型コロナウイルスの影響で自粛が呼びかけられる状況でも、工事は着々と進んでいます。FoE Japanは引き続き、地元の人々や原告、若者と共に、横須賀石炭火力発電所の建



定員96名の大法廷だったが、傍聴者は35名までに制限される形で実施された。

設中止、そして石炭火力に依存する社会からの脱却のために尽力していきます。

皆様も、訴訟サポーターのメールマガジン（配信無料）の登録（https://yokosukaclimatecase.jp/support_us/）や、地球に優しい電力会社への家庭の電気の切り替え（<http://power-shift.org/>）を通じて、共に持続可能な自然エネルギー社会を目指すことができれば幸いです。（高橋英恵）

NO NUKES

脱原発と福島支援

<http://www.FoEJapan.org/energy/>

海に流しているの？ 処理汚染水



新地町でのシラウオ漁

東電福島第一原発で増え続ける「ALPS（多核種除去設備）で処理したが、トリチウムなど放射性物質を含む水」（以下、ALPS 処理汚染水）について、今年2月、政府の小委員会は海洋や大気へ放出することが現実的な選択肢だとする報告書をまとめた。これを受け、東京電力は、ALPS 処理汚染水の処分案を発表しました。

一方、プラント技術者なども参加する「原子力市民委員会」が提案する、陸上に大型タンクを建設し保管する「大型タンク貯留案」や「モルタル固化案」については十分な検討がなされていません。FoE Japanは、福島県いわき市の小名浜港および新地町で漁業者のお話を聞きました。彼らの抱く危機感は強く、「万が一のことがあれば、漁業は壊滅的」「海を守ることが、漁業が生き残る道」と語ってくれました。

しかし、マスコミは、「トリチウムはそこら中の原発から出されており、安全」という政府の説明を繰り返すだけで、代替案があることについてはほとんど報じません。

「そもそも ALPS 処理汚染水って何?」「トリチウムって安全なの?」「本当に海に流すしかないの?」そんな素朴な疑問に答えるために、3月30日、郡山にて学習会を企画しました。

また、わかりやすいQ&Aも作成しました。

これは福島だけの問題ではなく、全国で考えるべき問題だと考えます。経産省は、「広く関係者の声をきく」としていますが、産業関係の団体の意見を聞く場を4月6日に福島市で開催したものの、一般市民からは5月15日まで文書での意見提出を求めているのみです。こうした意見聴取のあり方も含め、みなさまからも、ぜひ意見を出してください。(満田夏花)

●関連情報と解説のページはこちら >>>



FOREST

森林保全と生物多様性

<http://www.FoEJapan.org/forest/>

東京都内の公共建築工事も“熱帯合板”を使用、熱帯林減少に加担

2017年4月、新国立競技場の建設現場でマレーシア・サラワク州産の熱帯合板が使用されていることを確認し、「世界にポジティブな改革をもたらす大会」を標榜しながら、実際には熱帯林減少に加担するという、国や大会組織委員会の姿勢への問題提起をしました。その後、FoE Japanでは、地方自治体としての東京都の制度や取り組みの実態を調査してきました。

都は公共工事に関して環境物品等調達方針を定めています。この方針では「適切に管理されていない森林から伐採された熱帯雨林材や針葉樹材」を環境影響のある物品として「使用抑制」の対象としています。「禁止」ではないものの、使用に際しては「やむを得ない場合」という条件を付加し、認証材、または合法性・持続可能性が担保されたものに限定しています。国のグリーン購入法よりも具体的でより熱帯林保全に踏み込んだ制度となっています。

ところが、この制度は形骸化しています。2019年3月、赤羽消防署庁舎改築工事にて、サラワク州産の熱帯合板の使用が確認されました。問い合わせたところ、2種類は認証材、1種類は非認証材であることが判明、且つ認証材もその根拠は不十分でした。改善策として東京都建築協議会にて周知徹底を行ったようですが、十分とは言えず今後も注視が必要です。

また板橋区(2019年9月)、世田谷区(2020年2月)の公共建築工事も熱帯合板の使用を確認しました。両区とも都の方針や制度を参考にしているようですが、「やむを得ない場合」が常態化していると言わざるを得ません。

「仏作って魂入れず」。制度を作っても目的に沿った実務が伴わなければ意味がありません。東京都において「脱熱帯合板」を実現し、民間工事への波及効果を目指すべく、今後も具体的な改善を提言していきます。(三柴淳一)

AID

開発金融と環境

<http://www.FoEJapan.org/aid/>

ベトナム・ブンアン2石炭火力発電事業への融資をやめて!



3月に行われた三菱商事前のアクション

世界各国が気候変動対策を強化し、石炭火力からの脱却を進めるなか、日本は現在も新たな石炭火力発電所を国内外に建設しています。ベトナム・ブンアン2石炭火力発電所もその一つで、三菱商事、中国電力が出資し、日本の三大銀行(三菱UFJ、みずほ、三井住友)、および国際協力銀行(JBIC)が融資を検討しています。もともと、この事業の融資団にはシンガポールや英国の銀行が含まれていましたが、気候変動への影響などを考慮して撤退。三菱商事と合併を組んでいた香港のCLPホールディングスも撤退し、残ったのは日本の企業と銀行のみになりました。

新規石炭火力発電所の建設は、パリ協定との整合性がつかないことはもちろん、建設予定地にはブンアン1石炭火力発電所や製鉄所があり、すでに起きている大気汚染、海洋汚染などの問題を悪化させる恐れがあります。現地住民に対し、事業の説明が適切になされていないとの指摘もあります。ベトナムでは、2022年には既存の石炭火力発電操業コストより太陽光発電の建設コストのほうが安価になるとのデータもあり、本事業の必要性や他の発電方法についてきちんと検討されたのか疑問が残ります。

FoE Japanはこれまで、日本政府、事業実施者・融資者との面談、JBICに対しての要請書等で事業の問題を指摘してきました。3月には日本、インドネシア、フィリピン、オーストラリアの4カ国同時で三菱商事に対しての抗議アクションを行い、また三菱商事の大株主および主要融資銀行等51社に対し、三菱商事からのダイベストメント(投資引き上げ)を求める要請書も送付しました。これからも、現地住民、地球環境、気候正義のために反対の声を上げ続けます。

(杉浦成人)



立ちこぎ活動日誌!

Vol.24



リヤカーは子どもたちに大人気

FoE Japanでは、宇津木の森（東京都の緑地保全地域）を拠点に里山再生活動を行っています。里山が人々の暮らしに密接に結びついていた頃のように、今の私たちの暮らしに合った形で、里山の資源を最大限活用しようと模索をしています。

これまでも伐採した広葉樹は薪や炭、木工材料として活用してきましたが、昨年から、竹材を田んぼの用水路の柵に活用したり、落ち葉溜めから腐葉土を作って参加者に配布したりと活用の幅がさらに広がっています。また、森のようちえんの子どもたちが定期的に遊びにくるなど、場の活用も増えています。定例活動日には大人と子ども合わせて毎回30名以上の方が参加してください。作業で汗を流したい人、走り回って遊びたい人、収穫物目当ての人、動機はいろいろでかまいません。参加することで活用の輪が広がり、森も自分も元気になると思います。ぜひご参加ください。（篠原ゆり子）

宇津木の森里山再生プロジェクト >>> <http://www.foejapan.org/satoyama/activity/index.html>

information FoE Japan は40周年を迎えました!

今年、FoE Japan は設立40周年を迎えました。1980年の設立から今日に至るまで様々な活動を行ってきましたが、ここまで継続してこられたのも、FoE Japan を様々な形で支えてくださっている皆さんのおかげです。心より感謝申し上げます。

人生に例えると40歳は「不惑」と言われますが、日々目まぐるしく変化する社会や環境のなかで、私たちがすべきことや考えることも変化し、目の前の課題や目指す社会を達成する取り組みについて、私たちは常に模索しているとも言えます。

折しも新型コロナウイルス COVID-19 の流行により、私たちの活動にも制約が出てきました。一方で、このような危機の中だからこそ、最も影響を受けている方々に寄り添い、FoE Japan が40年かけて蓄積してきた知恵、ネットワークを活かし、乗り越えていきたいと思っています。

これまでの数十年、そしてこの先10年、そのまた先を見据え、私たちに何ができるか。2020年は、少し立ち止まって考えながらも、着実に前に進む一年にしたいと思います。



FoE Japan (フレンズ・オブ・ジ・アース・ジャパン) とは

世界75カ国にネットワークを持ち、国連にNGOとして正式に承認されているFriends of the Earthのメンバーです。地球上のすべての生命（人、民族、生物、自然）が互いに共生し、尊厳をもって生きることができる、平和で持続可能な社会を目指し、1980年より日本での活動を続けています。

会員募集

FoE Japan の活動はみなさまのご支援によって支えられています。持続可能な社会をめざし、国内外の環境問題に取り組む私たちを応援してください。

会員特典

- 入会時にオリジナルエコグッズと会員証をお届けします。
- ニュースレター（季刊）をお届けします。
- 各種イベント等、環境学習講師派遣料、出版物等が割引になります。
- 会員限定のイベントやプロジェクトに参加いただけます。

会員

種類	年会費
個人	5,000 円
	10,000 円
	30,000 円
	50,000 円
学生	3,000 円
ファミリー	3,000 円
団体（一口）	10,000 円
法人（一口）	50,000 円

お申し込み方法

パンフレットから
事務局にご請求ください

ウェブサイトから
www.foejapan.org/join/

お支払い方法 [下記のいずれかの方法をご選択できます]

- 郵便振替 郵便振替口座 00130 - 2 - 68026 FoE Japan
- 銀行振込 城南信用金庫 高円寺支店（普）358434 エフ・オー・イー・ジャパン
*銀行振込の場合は、お手数ですが送金後事務局までご連絡ください。
- 銀行自動引落し 所定の自動引落利用申込書をご利用ください。
- クレジットカード ウェブ決済をご利用いただけます。

寄付の募集

金額の多少に関わらず随時寄付金を募集しています。FoE Japan へのご寄付は税制優遇措置（寄附金控除）の対象になります。お支払い方法は会費と同様です。みなさまのご支援をよろしくお願いいたします。

編集後記

終わりの見えないコロナ禍。この禍は、地球の資源を貪り、酷使してきた私たち人類に対する地球からの警告だ、とも言われています。この警告にしっかり耳を傾けて、もっと地球を労わる生活に、経済に、世界に、みんなで変えていきましょう。穏やかな日常が早く取り戻せますように。（Y）

green earth Vol.74 2020年4月30日発行

発行人 ランダル・ヘルテン
編集 篠原ゆり子 佐々木勝教
デザイン 畠山功子
印刷 株式会社 文星閣



認定NPO法人 FoE Japan
(フレンズ・オブ・ジ・アース・ジャパン)

〒173-0037 東京都板橋区小茂根1-21-9
TEL 03・6909・5983 FAX 03・6909・5986
<http://www.FoEJapan.org>
E-MAIL info@foejapan.org